

No. 8

公益財団法人東洋哲学研究所

NEWSLETTER



# 目次

研究所紹介 -----	1
東洋哲学研究所創立 60 周年に寄せて -----	2-9
第 35 回学術大会 -----	10-11
「法華経——平和と共生のメッセージ」展 -----	12-13
連続公開講演会 -----	14-15
NEWS -----	16-17
研究部員会／部門・プロジェクト活動 -----	18-19
「法華経写本シリーズ」／東哲叢書「仏典現代語訳シリーズ」／ トインビー・池田対談 50 周年記念論集 -----	20-21
定期刊行物 -----	22-24

「IOP NEWSLETTER」No.8 では、公益財団法人東洋哲学研究所が 2021 年 4 月から 2022 年 3 月に推進してきた研究活動のトピックスを紹介します。

※所属、肩書、講演会タイトル等は当時のものです。

# 研究所紹介

創立者：池田 大作 創価学会インタナショナル（SGI）会長  
代表理事・所長：桐ヶ谷 章

## 【沿革】

1962年（昭和37年）1月27日 開所

1965年（昭和40年）12月3日 財団法人設立

2010年（平成22年）11月18日 公益財団法人認定

## 【設立趣旨】

東洋思想、なかんずく仏教のすぐれた思想・哲学を研究するとともに、各学問分野との学際的研究を推進し、その成果をもって、人類が抱える諸課題の克服に貢献する。

## 【所在地】

住所：〒192-0003 東京都八王子市丹木町 1-236

TEL：042-691-6591 / FAX：042-691-6588

開館：月曜日から金曜日（午前10時～午後5時）





# 東洋哲学研究所 創立 60 周年に寄せて

東洋哲学研究所は 1962 年 1 月 27 日、池田大作先生によって創立された。その目的は、東洋思想、なかんずく仏教のすぐれた思想・哲学を研究するとともに、各学問分野との学際的研究を推進し、その成果をもって、人類が抱える諸課題の克服に貢献することにある。2022 年は、研究所の創立から 60 周年の佳節を刻んだ。ここでは、研究所が友誼を結んできた世界の学識者たちから寄せられたメッセージを紹介する。



## 中日友好と文化交流に果たす 東哲の多大な貢献

趙声良

中国・敦煌研究院党委委員会書記（前院長）

中日国交正常化 50 周年にあたる意義深き本年に迎えた東洋哲学研究所創立 60 周年、誠におめでとうございます。私はここに、敦煌研究院を代表し謹んで貴研究所に心より喜び申し上げます。貴研究所の所員の皆様方に深く敬意を表します。

創立者・池田大作先生が東洋学術研究所（現・東洋哲学研究所）を設立されました当初、仏教の精神をもって、人類の平和と幸福のために貢献することを提唱されました。それ以来常に、貴研究所は、東洋思想、とりわけ仏教思想についての哲学的な深い研究を通して、人類社会が直面する様々な現実問題に対してお手本となるような目標および取り組みを提示することに尽力され、収められた業績は世間の注目を集めています。貴研究所が創刊した「東洋学術研究」は、常に東方思想、哲学学術研究および交流の土台であり、国際社会も関心を寄せています。貴研究所の皆様方の厳しく学問を収める態度および飽くなき探求心に私は深く敬服しております。

長きにわたって、貴研究所とわが敦煌研究院は、良好な協力関係を保ってきました。1980 年、わが院の初代院長であった常書鴻先生と池田大作先生が対談を行い、シルクロードと敦煌芸術ならびに世界平和の諸問題について広範な議論を行いました。それ以後、わが院と貴研究所は、深い友情を結び、交流と協力が始まりました。

段文傑先生が院長を務めている際の 1985 年には、東京富士美術館で開催された「中国敦煌展」で、日本の様々な分野の人々に向けて敦煌で発見された極めて貴重な巻物等の歴史文化財を展示しました。



その後幾度となく国際学術討論会が開催されましたが、すべて池田大作先生および貴研究所の尽力のおかげであります。

2012年、樊錦詩院長（当時）が「敦煌・絲綢之路（シルクロード）国際学術研討会議」に参加している期間中、東洋哲学研究所を訪問した際、「法華経」関連の貴重な図書資料を寄贈していただきました。



敦煌研究院が初共催したシンガポールでの「法華経——平和と共生のメッセージ」展（2017年10月）。  
これには、同研究院の代表が出席し、講演を行った

2017年10月には、貴研究所がシンガポールで開催した「法華経——平和と共生のメッセージ」展に、わが院は法華経を専門とする研究者を派遣して講座を行いました。2018年9月、敦煌研究院と東洋哲学研究所は共同で「敦煌と法華経」をテーマにした学術シンポジウムを開催しました。会議は実り豊かな成果を収め、会議後双方は協力と交流のための学術交流協定を締結しました。

このように両機関の過去の歩みを振り返りますと、池田大作先生および創価学会、東洋哲学研究所は、敦煌研究院の石窟保護および研究作業に多大な関心と支援を寄せていただき、中日友好と文化交流の発展に対して、大いなる貢献をしてくださいました。

私は、新たな時代においても、私たちの交流と協力はこれまで通り続いていくと確信しており、わが院は貴研究所と深く協力し続け、手を携えて進んでいくことを希望しています。貴研究所の各事業が更なる進展および更なる輝かしい業績を達成され、創立60周年の各活動が円満に成功されますことをお祈り申し上げます。



## たゆみなき諸経の王・法華経の 研究と発展に期待

賈蕙萱

中国・北京大学国際関係学院教授  
(同大学池田大作研究会初代会長)

東洋哲学研究所の創立 60 周年にあたって、私は、皆様に心からのお祝いを申し上げたいと思います。

振り返ってみると、私と貴研究所との縁は、とても深いと感じております。また、創価大学を訪問させていただく度に、貴研究所から温かなおもてなしを頂戴したことを思い出しております。貴研究所においては、皆様の研究成果を拝聴させていただく機会に恵まれ、中でも「諸経の王」である「法華経」の写本資料などを研究・収集されている業績に感銘いたしました。そして研究所をご案内いただいたことにも、満腔の感謝を捧げたいと思います。

私にとって、貴研究所との交流で記憶に新しいのは、2004 年 10 月のことです。天高く馬肥ゆる季節に、池田大作先生の初訪中 30 周年を記念するために、貴研究所と北京大学池田大作研究会による国際フォーラム「21 世紀東方思想の展望」を共同主催したことです。

私も、中国の出席者も、このテーマを通して新たな知見を得て、深く勉強をすることができました。ここで改めて感謝と御礼を申し上げます。さらに、貴研究所の機関誌である「東洋学術研究」を寄贈してくださっていることにも、重ねて感謝の意を表するものであります。

中国古代の紀年方法の一つでは、60 年は一甲子と申します。その後、一巡してまたもとに戻る（中国語：周而复始）と言われております。すなわち、言い換えれば、止まることなく、ずっと発展していくという意味が込められているのです。皆様の研究所は、一甲子を迎えられるとのこと、大変に良い兆しであります。誠におめでとうございます。東洋哲学研究所の皆様、百尺竿頭に一步を進んでいきましょう！

貴研究所のますますの繁盛と発展をお祈り申し上げます。





## アジアから世界へ——法華経研究を通じた 宗教・文化理解への貢献

ゴーパ・サバロワール

インド・デリー大学准教授（ナーランダ大学元副総長）

1961年1月、池田大作 SGI 会長は、日蓮大聖人の仏法西還の予言を踏まえ、恩師・戸田城聖創価学会第2代会長の東洋広布の遺志を実現するための第一歩を印されました。

壮大なヴィジョンと決意・確信に彩られた SGI 会長の初のアジア訪問は、大聖人の御聖訓実現のためにという熱誠の行動によって、数々の現実的な困難を乗り越えて実現されました。この歴訪の旅の最重要行事は、ブッダガヤ訪問の折に釈尊成道の地である大菩提寺（マハーボディ寺院）の敷地内に記念の品々を埋納し、東洋広布の第一歩を刻印されたことでもあります。釈尊が遊行された大地を踏みしめるといふ甚深の意義を持つ経験をされた若き SGI 会長は、東洋そして世界広宣流布への誓願を胸に、その双肩に道なき道を切り開く全責任を担い立たれました。

この旅の途上、滞在先で多様な生活習慣や文化を目の当たりにされた SGI 会長は、アジアの民衆がそれぞれの文化や各地で信仰している様々な宗教哲学を互いに理解していく必要性を実感されました。それらに関する理解が日本に欠如していることに気づかれたのです。帰国を待たずして、すでに SGI 会長は法華経の研究とその普及を専門に行う研究機関創設の考えを同行諸氏に明言しています。まさにこのアジア歴訪の帰路に今日の東洋哲学研究所の構想が創られたのです。

これまでの60星霜の歩みの中で、貴研究所は法華経研究のみならず、他の研究機関との連携、シンポジウムや公開講演会の開催、着実な出版活動を通して、学術分野に大きな足跡を刻んでいます。また、哲学研究分野における主要な研究機関へと発展し、貴重な資料の収集にも尽力されています。活動内容と範囲を着実に拡大し、「東洋学術研究」の出版を通して、文化的意識と理解の醸成に多大な貢献をされてきたのです。

貴研究所が世界を主導する研究機関へと発展されますことを、心より願います。



## 平和をもたらす寛容の精神を基に 対話と研究を

フェリックス・ウンガー

ヨーロッパ科学芸術アカデミー名誉会長

東洋哲学研究所の創立 60 周年を心よりお祝い申し上げます。60 年は人生の大きな部分を占める歳月です。貴研究所は SGI の活動を支え、創価学会の掲げる理念を補完する役割を果たしてこられました。創価学会の哲学的基盤確立に弛みなく尽力してこられた創立者・池田大作 SGI 会長の貢献の結実であるこの佳節に、SGI 会長に対して衷心よりお祝いを申し上げます。

貴研究所の特徴、それは宗教間対話を重視し促進する中で、現代が必要としていながらも醸成することの難しい寛容の精神を広げておられることです。ヨーロッパ科学芸術アカデミーは 30 年にわたり貴研究所と交流を重ねる中で、寛容の精神を広げゆくことの重要性をともに確認してきました。

この 30 年間、東京とザルツブルクで開催した宗教間対話をはじめとして、貴研究所と様々な対話と交流を行いました。それらはひとえに寛容の精神を育むために相互理解を促進してこられた SGI 会長の努力により実現したものです。現代社会において極めて重要な意義を持つ寛容の精神は、異なる宗教への理解を深めていく中で培われていくものです。それを適正に涵養するのが宗教間対話です。実際には、それぞれの宗教を隔てる差異というものはそれほど多くはないのです。

私たちが共催した中で、とりわけ印象深く思い出されるのはミラノでの会議です。その内容は『われわれは人間である (siamo umani) 』という冊子に収められていますが、ここに私たちが考える寛容の精神の骨格が示されています。『われわれは人間である』とのフレーズは、私と SGI 会長とで案出した重要なテーマとなるメッセージです。この冊子のタイトルには両機関の基本理念とそれを実現するための努力が凝縮されています。貴研究所がその理念を推し進める努力を着実に続けていることを確信するとともに、この実り多き対話がさらに発展し、『われわれは人間である』というテーマのもとで新たな書籍へと結実することを念願しています。

この本は様々な宗教を理解する上で重要な役割を果たすものになります。特に宗教とは行動様式であるという点において、また、この本が両機関の活動の目的であるという点からも極めて重要な意味を持ちます。

鍵となる課題は何か。それは、相手の話を聞き、相手を理解することです。異なる宗教との間に共通項を見出し、ともに進むべき道を探すことはそれほど困難なことではないと考えます。

SGI 会長とはこの点について実り多い対話を重ね、冊子『われわれは人間である』をめぐって東京で最後に語り合ったことを思い出します。このような宗教間対話を通して、また東洋哲学研究所の活動によって相互理解を広げ、平和への運動が拡大していくことを確信します。



東洋哲学研究所とヨーロッパ科学芸術アカデミーとの共同シンポジウム「医学と宗教」（2012年6月、東京・新宿で）。ウンガ-名誉会長は「医学における倫理——心臓外科医からの考察」と題して講演

寛容の精神は、私たちの日常生活における平和の維持と建設に不可欠の要素です。新聞を読めば、それがどれほど重要であるかが分かります。寛容の精神を理解できないために生みだされた紛争が、どれほど多くあることか。寛容の心を広げる努力は、平和の根を深くのばし、恒久平和を構築しゆく非常に重要な活動です。普段の生活で平和を考え実践するというのは困難なことではありますが、平和という目的を達成するために必要なのは、私たちが他者を攻撃する心を抑制し、周囲の人々を実りある対話へと糾合していくことなのです。

これまで述べた通り、東洋哲学研究所には世界全体の平和の構築に必要とされる要素が具わっています。世界は貴研究所からの発信を必要としています。平和の基盤たる寛容の精神を醸成する対話がさらに進められることを期待し、次なる60年間のますますの発展と繁栄をお祈り申し上げます。貴研究所の最終目標達成へ向けてともに前進してまいります。



## 東洋哲学研究所の創立 60 周年を祝して

### 金在榮

韓国・西江大学教授（韓国宗教学会元会長）

東洋哲学研究所は創立者池田大作 SGI 会長の構想を具現した研究機関であると理解しています。会長は世界平和推進のためにインドを訪れた際に、東洋の哲学、文化、民衆をつぶさに観察されました。そのご経験を通して法華經の智慧を世界に広めゆくことが最重要であると看取され、その役割を担う機関として貴研究所を創立されました。

その行動には多様な宗教、民族、文化の差異を超えて平和な地球社会を建設するとの創立の目的が映し出されています。貴研究所の創立にむけた SGI 会長の不朽の尽力こそが、東洋哲学研究所がこれまで築き上げて来られた数々の学術研究成果の原動力となってきたことを確信します。

貴研究所との出会いは、2016 年、私が韓国宗教学会の会長在任中のことでした。当時、貴研究所主催の法華經関連の行事に招待していただき、研究所スタッフの方々と懇談した際に、皆様の人間主義的価値観と伝統継承の姿勢に触れ、友情の絆を築くことができました。

さらに 2018 年には、宗教心理学の視点から SGI 会長の人生と作品について講演をする光栄に浴しました。これらの経験から SGI 会長への関心を強くし、SGI 会長に関する研究をより精緻な次元へと深めてきました。拙講では、人間には困難を乗り越える力が具わっている、という SGI 会長の確信に裏打ちされた力強い楽観主義に言及しました。また貴研究所を訪問し交流する中で、研究者の方々が創立者である SGI 会長の理念を追求し続ける姿勢と、その伝統の継承が、研究所の活動の原動力となっていることに感銘を受けました。その伝統は、宗教や文化における差異を超克し、世界市民としての共生の概念を拡大する活動の基盤となっています。

差異の超克による共生という理念は、私たち人類が直面している気候変動、感染症の蔓延、経済の二極化などの課題解決の鍵となることを確信します。東洋哲学研究所の創立 60 周年の佳節にあたり、SGI 会長の理念の継承、さらに世界平和実現と新たな世界文化構築という目標の具現に邁進しゆかれますことを心より願います。





## 知識を渴仰する人類への 絶え間ない貢献

### ノーラニット・セータブット

タイ・タマサート大学評議会議長

世界が直面する幾多の重要課題の解決のために、普遍的な宗教的価値を人類の豊饒な精神遺産へと統合してこられた東洋哲学研究所の60年にわたる実績に対し、心からのお祝いを申し上げることは、私の大きな喜びであります。

池田大作 SGI 会長のもと創立されてより今日まで貴研究所は、宗教間対話が、信頼の醸成そして究極的には文化の差異を超えた平和の構築に果たし得る役割を示す模範の活動を続けてこられました。

人類が国という枠を超えた地球的課題に直面せざるを得ない、この VUCA+（変動性・不確実性・複雑性・曖昧性+）の世界において、SGI 会長が目指される問題解決のための多様なプラットフォームは、リーダー諸氏に研究機関の枠を超えて連携していくという解決法を示してくださっています。ほぼ全世界といえる各地域の主要なリーダーや文化人、研究者が「生命の尊厳」という共通のヴィジョンを掲げ協働することによって、数々の平和のための提言がこれまで世に送り出されてきました。

さらに、これまで取り組まれてきた学術研究と法華経に関する研究成果の世界的な展示活動といった、知識を渴仰する人類の渇きを癒すための弛みなき貢献を通じて、東洋哲学研究所は「豊饒なる智慧の保管庫」たるべき使命を精力的に果たしてこられました。中でも、貴研究所が企画・制作した「法華経——平和と共生のメッセージ」展は、法華経の教えを広く世界に紹介し、その普遍的意義を明らかに示すものでした。また、貴研究所が開催した国際シンポジウムなどに対しても、各国の参加者より称賛の声が寄せられています。

SGI 会長の創立理念のもと、影響力の高い研究や世界規模での協働を主導されるなど、貴研究所は数十年間にわたり、恒久平和を追求する世界市民に対して、極めて重要な貢献をしてこられました。今後の発展を、心より期待しております。

# 第 35 回学術大会

## シンポジウムテーマ

### 「21 世紀における信仰と理性

#### ——創立者の『スコラ哲学と現代文明』講演の視座から」



上段左から、東京大学名誉教授で星槎大学学長の山脇直司氏、同志社大学客員教授で作家の佐藤優氏、山崎達也研究員。下段左から、桐ヶ谷章所長と司会の葛木栄一委嘱研究員

第 35 回学術大会が 2021 年 5 月 29、30 日にオンラインで開催された。研究所の学術大会は、国内外の研究員・委嘱研究員が集い、法華経研究をはじめ、宗教間・文明間対話、平和と人権、環境問題などの課題克服の研究成果を発表する機会であり、それぞれの専門・研究分野を踏まえたテーマで発表を行った。

1 日目（5 月 29 日）にはシンポジウム「21 世紀における信仰と理性——創立者の『スコラ哲学と現代文明』講演の視座から」をオンラインで実施した。コロナの挑戦に人類がいかにして応戦しゆくかの喫緊の課題に対して、創立者・池田先生が 1973 年に行った「スコラ哲学と現代文明」講演のなかから、「現代ほど宗教を喪失してしまった時代もなく、それゆえに救済のない時代もない。——この現実のうに私たちは生き続けているのであります。このように認識するとき、最大の緊急事というべきものは、現代に耐え、現代を導くに足るだけの哲学の樹立であり、その基盤をなす真の宗教の確立であります」

との指針を契機として開催を試みたもの。シンポジウムでは、桐ヶ谷所長の挨拶の後、それぞれが以下の発表を行った。

●「信における内在と超越——中世スコラ神学から法華思想へ——」（山崎 達也 研究員）  
創立者は「スコラ哲学と現代文明」のなかで、宗教と哲学、信仰と理性の一致を証明することに講演の動機があったと述べている。本講演ではさらに、トマス・アクィナスが神に関する第一真理が理性には及ばない領域にあるものとして理性に対する信仰の優越性を強調したことにも言及され、ここにスコラ哲学の当初の目標が微妙に揺らいでいることを創立者は読み取っている。日蓮大聖人は「御義口伝」において「一念信解の信の一字は一切智慧を受得する所の因種なり」と述べている。如来の智慧から見れば、無明と法性は体一である。その智慧が信といわれるならば、ここに信と知との一致が見られるのかもしれない。しかしそれでもやはり、時間的世界に生きるわれわれ人間には自らの内奥

の無明との絶えざる闘いが信仰なのである。

#### ●「ヨゼフ・ルクル・フロマトカの人間論」

(佐藤 優 同志社大学客員教授、作家)

本発表は、チェコのプロテスタント神学者ヨゼフ・ルクル・フロマトカの人間論の特徴を明らかにすることを通じ、キリスト教徒と他の宗教を信じる人々、あるいは宗教を否認する人々との対話の基盤を神学的に位置づけることにある。フロマトカは隣人愛に基づく真摯な行動と対話が、悔い改めの契機になると主張する。こうした点は、すなわち信心とは即行為に現れるという創価学会との共通性がある。悪は、人間が他者を自己の利己的な目的のために利用するときに増殖する。このような悪を目の前にしたときにキリスト教徒は戦う義務がある。頑なな他者の心を解きほぐし、対話を可能にするアプローチとしてのフロマトカの言説は、創価学会の折伏の行動と同様であるのではないだろうか。シンポジウムを通じて、創立者の思想を学術的なアプローチで捉えていく時代が到来したと実感する。

#### ●「宗教間対話と学問体系における信仰と理性」(山脇 直司 東京大学名誉教授、星槎大学学長)

どの宗教にも部分的に見出されるような、自ら信じる宗教原理や経典を超歴史的に絶対化し、他の宗教を絶対的誤謬とみなして排斥する態度や思想は避けなければならない。そうではなく、各信仰者が何らかの宗教にコミットしながら自らが信じる宗教や経典の「歴史的規定性」を十分自覚し、他の宗教との「差異性」のみならず「共通性」をも対話などによって探っていくような態度こそ、理性と両立可能な現代にふさわしい信仰のあり方と言える。人類史における宗教の正の遺産は、過小評価されるべきではない

だろう。宗教は特に、絶望に打ちひしがれた人々に希望を与え、生きる勇気を与えたという点で、今日でも引き継がれるべき正の遺産を持つと言えよう。過度の世俗化が進んだ現代社会で、皮相的なリアリティから人々を解放し、死すべき運命を担う個々の実存の意味への思索を促すための宗教間対話は、今なお重要であろう。しかし 21 世紀の今日、宗教間対話を促進する上で、諸宗教が過去の負の遺産（たとえば、カトリックでの魔女狩りや異端審問など）を記憶・反省し、二度と繰り返さないよう自覚することも必要である。宗教に根を張った学問体系をどのように構想・構築するかは、宗教や宗派を超えて池田 SGI 会長の思想に共鳴する学者の多くにとって、大きな課題であろう。

発表後には、パネルディスカッションを行い、参加者との質疑も活発に行われた。

#### 研究発表大会 2 日目 (5 月 30 日)

##### ●The Ten Worlds of Tiantai Zhiyi within Atiśa's Stages of the Path

(ジェームズ・アップル海外研究員)

##### ●牧口価値論成立史に関する一考察

(伊藤 貴雄研究員)

##### ●講演「スコラ哲学と現代文明」に学ぶ SDGs の潮流

(光國 光七郎委嘱研究員)

##### ●ブルガリア語版 新・ジュロヴァ対談集について

(二宮 由美研究員)

##### ●ウラジーミル・ナボコフの「ロシアの検閲官・作家・読者」を読み直す

(寒河江 光徳委嘱研究員)

##### ●教職育成と学校現場との解離

(大久保 俊輝委嘱研究員)

##### ●自殺現象に関する考察——社会脳を発達させた人類を焦点にして——

(山口 力委嘱研究員)

アジア、欧州、南米など世界 17 カ国・地域で開催

# 「法華経——平和と共

「法華経——平和と共生のメッセージ」展は、東洋哲学研究所が企画・制作する展示会で、2006年からスタートした。同展は、研究所が進める法華経研究の成果を広く公開するとともに、法華経の伝播の歴史と経典の内容を分かり易く紹介するものである。研究所では創立者・池田先生の指針のもと、「法華経とシルクロード」展（1998年～2000年）、「法華経——世界の精神遺産」展（2003年～04年）、「法華経——平和と共生のメッセージ」展（2006年～現在）を開催。その間、「仏教経典：世界の精神遺産——写本と図像で知る法華経」展（2016年～現在）等も行ってきた。

法華経展の淵源となった1998年開催の「法華経とシルクロード」展では、ロシア科学アカデミー東洋古文書研究所が所蔵する約10万点に及ぶコレクションの中から、オリジナルの仏典写本、木版本など14言語47点が日本初の公開となった。そして、同展を発展・拡充したのが「法華経——平和と共生のメッセージ」展である。ロシア科学アカデミー東洋古文書研究所、中国・敦煌研究院、インド文化国際アカデミーの全面的な協力により、法華経写本の画像および複製の公開や敦煌莫高窟の再現、仏教文物・各種資料の提供なども行われている。その出品物には、8世紀書写とされるペトロフスキー法華経写本や1～2世紀書写のガンダーラ語の法句経の複製などが含まれる。また、敦煌莫高窟の壁画に描かれた飛天の模写絵や、敦煌文書の法華経（複製）をはじめ、経典書写の際に使用された鉄筆や白樺の樹皮の複製品など、展示全体で約160点に及ぶ文物が出展されている。また研究所では、同展を解説した『ガイドブック法華経展——平和と共生のメッセージ——』を編纂し、日本語、英語、韓国語、中国語（簡体字・繁体字）の4言語で刊行している。

展示会のコンセプトは“目で見る法華経”であり、日本だけでなく、仏教発祥の地であるインド、ネパールやイスラム文化圏のマレーシア、インドネシア、上座部仏教国のタイなどアジア各地をはじめ、ヨーロッパ、南米で開催。世界17カ国・地域で約90万人が鑑賞する展示会となっている。これまで、韓国の李壽成元首相、タイのウィーラ・ロートポッチャナラット文化大臣、香港中文大学終身主任教授の饒宗頤博士、翻訳家のバートン・ワトソン氏など各界を代表する来賓も展示会に訪れている。

「法華経の多様な写本を拝見しました。これらは、仏教精神への理解を深め、『法華経』のメッセージを世界に広げていく為のこのうえない資料です」（アルゼンチンサルバドル大学東洋学学院カルロス・マヌエル・ルア院長）、「仏教の普遍的価値を浮き彫りにし、人類の精神的遺産の一部とする歴史的な展示会です」（インド国立公文書館ムシルル・ハサン館長）等の声が寄せられている。



“目で見る法華経”に90万人の鑑賞者

# 生のメッセージ」展

## 展示会の開催国・地域・実施年

展示会の開催国・地域・実施年		
1	香港	2006年～2007年、2015年
2	マカオ	2007年
3	インド	2007年、2008年、2009年、2010年
4	スペイン	2009年、2012年
5	ネパール	2010年
6	ブラジル	2010年、2011年
7	スリランカ	2011年、2013年
8	イギリス	2011年
9	日本	2012年、2013年、2014年
10	台湾	2013年、2015年
11	マレーシア	2014年
12	アルゼンチン	2014年
13	韓国	2016年、2018年
14	ペルー	2016年
15	タイ	2017年
16	シンガポール	2017年
17	インドネシア	2019年



スペイン・マドリッド展（2009年）



シンガポール展（2017年）



神戸展（2012年）



タイ展（2017年）



ブラジル・サンパウロ展（2011年）



マレーシア・クアラルンプール展（2014年）



台湾・桃園展（2015年）

# 連続公開講演会

## 「法華経展とその世界

### ——思想と伝播の系譜から」

- ◆講師：古川 洋平（研究員）
- ◆開催日：2021年11月20日
- ◆方式：YouTube Live 限定配信
- ◆テーマ：初期経典から法華経へ——仏教普遍化への道



講演では、初期経典はインドの伝統的な仏教（部派仏教）に伝承されていたものであるのに対し、法華経は大乗仏教の代表的な経典の一つと言及。両者には結びつきが認められ、具体的には法華経が初期経典に説かれている釈尊の事跡を下地として、それを捉え直す中で成立していることについて述べた。そして「法華経の『誰もが仏になれること』は、誰もが犯すことの出来ない尊厳性を有しているということです。東洋哲学研究所では、法華経の誰もが仏に成れるという教えを生命尊厳としてとらえ、法華経展をはじめとして、法華経に説かれるこの普遍的な思想を現代社会に広く浸透させていく運動を展開してまいりました。あわせて、当研究所の創立者である池田大作先生もまた、世界の識者などとの対談の中で法華経の現代的意義を常々強調されてきたのです」と語った。

- ◆講師：末木 文美士（東京大学名誉教授）
- ◆開催日：2021年11月27日
- ◆方式：YouTube Live 限定配信
- ◆テーマ：法華経の系譜——インドから日本へ



末木氏は、法華経は菩薩論として捉えられる経典であることを示し、菩薩は自分だけでなく、ほかの人も一緒に幸福になるという存在という意味で重要と強調。ブツダの滅後、「どうやってブツダは救済者になったのか」「どれほど素晴らしい人だったのか」を弟子が問い続けるなかで形成されたのが菩薩であると述べた。また、菩薩の修行である六波羅蜜のなかから布施について触れ、他の5つは一人でもできる修行であるが、布施は他者を必要とすることに言及。菩薩の修行は仏になるためのものであるが、自分の為だけでなく他者の幸福を求める心が大事となると述べ、その修行を他の人と一緒に自他共に行っていく菩薩の実践に注目した。そして、こうしたことが説かれ、皆が菩薩であるというのが法華経であり、その実践を仏の力によって行うことができることを教えていると語った。

「法華経——平和と共生のメッセージ」展は、東洋哲学研究所が企画・制作し、2006年より始まった展示会である（展示会の詳細は12、13頁に記載）。2021年は同展の開催から15周年の佳節となったことから、その学術的価値や展示内容を踏まえたうえで、東アジアを中心に法華経が伝播した要因等に論じたオンラインによる連続公開講演会を実施。国内外から約2000人が視聴した。

- ◆講師：下田 正弘（東京大学大学院教授）
- ◆開催日：2021年12月4日
- ◆方式：YouTube Live 限定配信
- ◆テーマ：聖典としての仏教——法華経へ、そして法華経から——



講演では、「経典は物体ではありますが、それは自分自身を飛躍的に高めていく存在という考え方もできるものです。仏教は言語の力を認めつつ、限界も認めているからこそ、智慧と実践の双方を行き来することが重要です」と述べた。また、東哲の法華経展も、経典を求める場を提供し、そこで学んだことを自分の場で広げていく『求心』『遠心』を形にしたものであることを強調した。仏典に記されている歴史的経緯に触れた氏は、法華経と出会うのも人を通して出会う。（人による）伝承がなければ、仏と出会う術がないということになることを確認し、「そういう意味で、すべて同様に宝であるのだ、と私は理解している。中国であれ、日本、チベットであれ、すべて三宝に帰依するのが大原則であり、目の前に現れていることと、仏は別でないということが仏教の理解です」と語った。

- ◆講師：ダシュ・シヨバ・ラニ（大谷大学教授）
- ◆開催日：2021年12月18日
- ◆方式：YouTube Live 限定配信
- ◆テーマ：写本研究から見える経典崇拜



講演では、自身の貝葉研究を踏まえつつ、写本の種類（紙、樺皮、貝葉等）や、その作成方法に言及。「インド・タイ・スリランカでの調査報告から見える貝葉写本と信仰」「『法華経』と経巻崇拜」「『法華経』の供養の仕方と得られる功德」などについて語った。そこで、法華経写本が多く残っているのは、経典を供養するという宗教的な価値を持ったことにより、時代を超えてほぼ正確な形で伝えられてきたからだと考えられるとし、「今、私たちが法華経の写本を目にすることができるのは、誰かがそれを大事にし、その次の世代の人びとにもそれを大事にしてほしいと思ってきたからです。私たちはそれをありがたく受け止めねばなりません。単なる遺産ではなく、本来の意味を理解して伝えていくことには大きな責任があると思います」と述べた。

## 台湾・故宮博物院で法華經写本シリーズを公開

台湾・故宮博物院による「法華經 及其美術」展（主催＝同博物院）が、2022年1月29日に開幕した（写真上、同7月17日まで）。これには、同院に寄贈された「法華經写本シリーズ」全19点が公開された（同下）。



同展は、釈尊の万人成仏の思想に基づいて顕された法華經が、東アジアを中心に芸術・文化にも及ぶ影響を与えてきたことを踏まえたもの。セクションを「序分」（法華經の紹介）、「正宗分」（法華經のテーマと芸術）、「流通分」（法華經の普及と伝播）の3つに分けて、それぞれに関連した文物・資料などを展示している。

故宮博物院の呉密察院長は、本シリーズ展示にあたり「故宮がこのような貴重な資料を所蔵することができ、大変光栄に思います。東洋哲学研究所創立者である池田大作先生の指導のもと、このような広い視野で偉大な基礎作業を進めてこられたことに敬意を表します」と語っている。



「法華經写本シリーズ」は、『法華經』を中心とした初期大乘仏教の研究に貢献することを目的として、法華經写本を所蔵する世界の研究機関・研究者の協力を得て刊行されてきたものである（同シリーズの詳細は20ページに記載）。

その成果は、東洋哲学研究所企画・制作の「法華經——平和と共生のメッセージ」展として結実。“目で見える法華經”をコンセプトにした同展は、台湾では2013年に台北、2015年に高雄、彰化、桃園の計4会場で実施。12万人が鑑賞に訪れている。

## 文明論レクチャー 文明間・宗教間対話レクチャー

東洋哲学研究所では、所内研究員だけでなく、外部の学識者を招聘した交流と研究推進を行っている。こうした試みは、コロナ禍における新しい活動の一環として、オンラインを使用して積極的に実施してきた。

2021年4月13日には、学習院大学の河合秀和名誉教授による「文明論」レクチャーを開催した（写真上）。



レクチャーでは、「池田・トインビー対談の時代——1970年代の政治と思想」をテーマに、創立者・池田先生と歴史家アーノルド・J・トインビー博士との対談集『二十一世紀への対話』が編まれた際の時代背景や、その内容の注目点などについて論究された。



同年12月13日には、東京大学大学院の菊地達也准教授による「文明間・宗教間対話」レクチャーを実施し、「イスラム思想における極端派的伝統：ヌサイル派（アラウィー派）の源流思想に関する研究序説」をテーマに行われた（同下）。

発表では、今日、アラウィー派と呼ばれることが多いヌサイル派について触れ、特定個人の神格化、輪廻思想といった特徴的な教義で知られ、現代シリアにおける支配的な政治勢力にもなっていることに言及。ヌサイル派の思想研究が直面する諸問題について紹介した上で、その源流思想をどこに求めるべきなのかを考察した。またその際、初期シーア派の重要な構成要素であった極端派（グラート）の伝統をヌサイル派が継承している可能性についても検討がなされた。

# 研究部員会／部門・プロジェクト活動

東洋哲学研究所では所属する各研究員が研究成果を発表する場として、研究部員会と研究部門・プロジェクトごとの研究会を開催している。※2021年4月～2022年3月に開催された研究会は、全てオンラインによる実施

## 研究部員会

4月20日 「新社会へのジェンダー関係と希望——創価学会の青年の事例」

フィスカール・ネルセン・アネメッテ（委嘱研究員）

6月15日 「SDGs時代の企業経営者・技術者に求められる哲学・倫理・宗教と自己啓発

——生命の尊厳観と人間精神の自由・自制——」 光國光七郎（委嘱研究員）

7月20日 「御書の述作年代研究——古筆学からのアプローチ」 小林正博（主任研究員）

9月21日 「池田・トインビー対談をめぐって」 石神豊（主任研究員）

10月19日 「核兵器禁止条約と原水爆禁止宣言——人間の安全保障の視点から——」

中山雅司（委嘱研究員）

11月16日 「日蓮の人間観」 前川健一（研究員）

12月21日 「地球温暖化と南大洋の水塊の移動」 山本修一（主任研究員）

2022年

1月18日 「道徳力・倫理力の衰退が及ぼす教育社会現象」 大久保俊輝（委嘱研究員）

3月15日 「安然『教時問答』における唯識法相批判」 土倉宏（委嘱研究員）

## プロジェクト研究会

### ■第1部門「仏教学」研究

#### 第3プロジェクト 日蓮仏教の文献学的、思想的研究

8月28日 「日蓮門下の経済事情——南条氏の事例から——」 梶川貴子（委嘱研究員）

「日蓮の末法観」 若江賢三（委嘱研究員）

10月12日 「日興正嫡論と五老僧」 陣内由晴（委嘱研究員）

「『本門の戒壇』に関する一考察——日蓮の戒壇構想再考の契機について——」

井上光央（委嘱研究員）

11月6日 「日蓮と鎌倉時代の感染症——『仏法の道理』に注目して——」

小島信泰（委嘱研究員）

「コロナ禍と『立正安国論』」 小山満（委嘱研究員）

## ■第2部門「人類的課題と宗教」

### 第4プロジェクト 宗教間対話

2022年

2月24日「転換期の現在と幸福平和学」岩木秀樹（委嘱研究員）

### 第6プロジェクト ジェンダー

9月25日「現代ロシアにおけるジェンダー教育」佐藤裕子（委嘱研究員）

11月13日「フランスにおけるジェンダー研究の傾向と現状、その基礎概念の構築をめぐる」

満足圭江（海外研究員）

12月25日「日本古典文学研究にジェンダー理論は有効にはたらくか」藤岡道子（委嘱研究員）

2022年

3月5日「NPOでの活動紹介およびシティズンシップ教育について」小川優（委嘱研究員）

### 第7プロジェクト 生命倫理

2022年

2月19日「コロナとソーシャルキャピタル」藤原武男（委嘱研究員）

### 第8プロジェクト 科学技術・環境問題

12月4日「宇宙は膨張しているか？」青木宏（委嘱研究員）

## ■第3部門「仏教の現代的展開」

### 第10プロジェクト 平和と人権

7月17日「SGI提言における人権への視座：移民・難民問題を中心に」蔦木文湖（委嘱研究員）

11月27日「『平和の文化』とSGI提言 No.2（1999年～2009年）」佐藤裕子（委嘱研究員）

2022年

1月22日「SDGsとSGI提言」長尾名穂子（委嘱研究員）

3月19日「国際連合と『SGIの日』記念提言 2——1991～2022年——」大島京子（研究員）

### 第11プロジェクト 教育論

2022年

2月26日「表現文化とは何か？ フィクションが生まれる時」寒河江光徳（委嘱研究員）

「池田大作の『4つの主義』の核心的内容」高橋強（委嘱研究員）

「『カントの哲学』ヲ精読シテ居ル：牧口常三郎の最晩年についての一試論」

前川健一（研究員）

「『倫理、道徳が成果を上げない理由～学校現場実践者の視点から～』——世界共通教育という視点——」大久保俊輝（委嘱研究員）

## 「法華經写本シリーズ」



東洋哲学研究所と創価学会は、法華經写本を所蔵する世界の研究機関および研究者の協力を得て、「法華經写本シリーズ」の刊行を推進してきた。これは、各国に保存されてきた貴重な法華經写本を、鮮やかなカラー写真で撮影した「写真版」と、写本の“読み”をローマ字化した「ローマ字版」を公刊したものである。世界の研究者に広く提供して『法華經』を中心とした初期大乘仏教の研究への貢献

を目的としている。1994 年に出版委員会を発足させ、1997 年から 2019 年にかけて全 17 タイトル 19 点を発刊してきた（非売品）。また、シリーズ開始の契機の一つとして創立者・池田先生に対して、世界の研究機関等から貴重な「法華經写本」の複製やマイクロフィルム等が寄せられてきたことがあげられる。

梵文法華經の校訂本としては「ケルン・南條本」（1908～1912 年）、「荻原・土田本」（1934～1935 年）、「ダット本」（1953 年）等の先駆的業績があったが、今日の学問的水準から見ると、より正確で信頼に足る校訂本が望まれている。当シリーズは、そのための基礎資料を提供するものである。

## 東哲叢書「仏典現代語訳シリーズ」

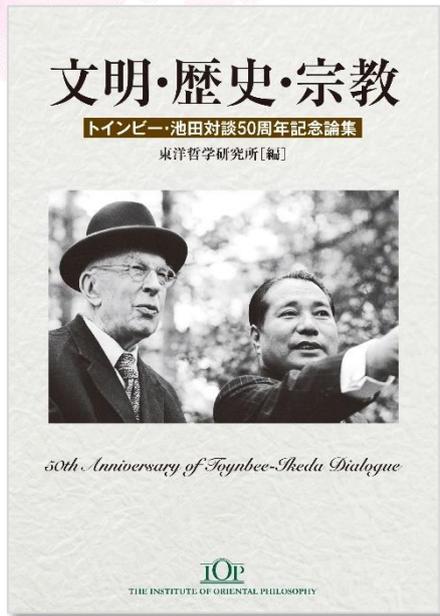


法華思想の系譜にあって特に著名な注釈書、思想書を著し、後世に甚大な影響を与えたのが中国の智顛、湛然、日本の最澄である。この法華思想の系譜は、後世の日蓮へと引き継がれ、日蓮教学の基礎理論を提供する重要な仏教文献となるのである。

これらの仏教文献は『大正新修大蔵經』等に収録されており、原典は漢文である。この原典の現代語訳を進めるのが「仏典現代語訳シリーズ」である。これまで『現代語訳 法華玄義（上）』、『現代語訳 法華玄義（下）』、『現代語訳 法華玄義釈籤（上）』、『現代語訳 顯戒論』を刊行してきた。2021 年 11 月には、5 冊目となる『現代語訳 法華玄義釈籤（中）』（菅野博史・松森秀幸訳注）を発売した。

# 『文明・歴史・宗教』 トインビー・池田対談 50 周年記念論集

2022年3月16日発行 定価:1,980円(税込)



1972年5月、ロンドン郊外で、創立者・池田先生と歴史学者アーノルド・J・トインビー博士による対談が行われた。翌年と合わせて延べ10日間、40時間に及ぶ対談では、「人生と社会」「政治と世界」「哲学と宗教」を柱に人間、自然、環境、学問、健康、福祉、宇宙、戦争、生命等々、多岐に亘るテーマで人類共通の諸問題について論じられ、対談集『二十一世紀への対話』として結実した。

半世紀を経た今、対談が発するメッセージを読み解き、トインビー史観、池田思想を学問的に研究すべく、東洋哲学研究所は第5プロジェクト「文明論」を立ち上げ、研究会を重ねてきた。対談開始50周年となる2022年に、その研究成果をまとめたのが本書である。

## 【目次】

発刊の辞	桐ヶ谷 章 (所長)
特別寄稿	
「地球文明」と希望の光	吉澤 五郎 (比較文明学会名誉理事)
アーノルド・J・トインビーについて——私の研究史から	河合 秀和 (学習院大学名誉教授)
第一部 対談および対談集 (『二十一世紀への対話』) の研究	
危機の時代とトインビー・池田対談	石神 豊 (主任研究員)
『二十一世紀への対話』にみられるアーノルド・J・トインビーの宗教概念——西洋中心主義をめぐる普遍性と相対性に注目して——	井上 大介 (委嘱研究員)
現代宗教と宗教間対話の理路	大西 克明 (研究員)
『二十一世紀への対話』における文学論——文学の役割への考察	岸・ツグラッゲン・エヴェリン (委嘱研究員)
第二部 トインビー研究	
リベラリズム・帝国主義・究極的実在——A・J・トインビーの思想的背景としてのイギリス観念論	春日 潤一 (委嘱研究員)
トインビーの共産主義観と「歴史の恐怖」	平良 直 (研究員)
トインビーの中国文明観と「文明型国家」	満田 剛 (委嘱研究員)
『二十一世紀への対話』各節の概要——サマリー&キーワード	石神 豊 (主任研究員)
アーノルド・J・トインビー／池田大作 対談関連年表 (1967年—1976年)	
あとがき	

# 定期刊行物

東洋学術研究 第60巻 第1号 (通巻186号) 定価：1,400円 (税込)



■創刊60年を迎えた第60巻第1号では、表紙や目次を刷新し、体裁も一部変更を加えた。“世界の思想・宗教・文化の総合研究誌”として、さらなる充実を図る。巻頭では、「法華経——平和と共生のメッセージ」展の開催15周年記念特集を企画。日本、中国、ロシア、マレーシア、フランスの5カ国の研究者による論考を掲載している。法華経展は、諸経の王・法華経に込められた精神を伝え、これまで17カ国・地域を巡回し、約90万人が観賞してきた。“目で見る法華経”をコンセプトに、写真や映像等を交えて分かりやすく紹介し、専門家だけでなく一般市民が多く来場。現地の文化や歴史、社会的状況を踏まえ、展示内容を変える工夫をしてきた。これらを通して法華経展が、社会の幅広い階層に平和と共生の哲学を広める影響を与えてきたなどの考察を紹介している。

■新連載「近代日本における価値哲学者の群像」がスタートしたほか、研究所創立構想60周年への寄稿や連続公開講演会「信仰と理性——コロナ禍のなかで」での講演録などを多数収録している。

## 主な内容

### ■「法華経——平和と共生のメッセージ」展15周年記念特集

- 文明間・宗教間対話に果たす法華経展の役割…………… 蔦木 栄一 (委嘱研究員)
- 敦煌芸術と『法華経』…………… 趙 声良 (敦煌研究院院長)
- 東洋哲学研究所とロシア科学アカデミー東洋古文書研究所の共同展示活動…………… イリーナ・F・ポポワ (ロシア科学アカデミー東洋古文書研究所所長)
- 法華経における譬喩——経典解明のための乗り物として…………… ファリダ・ノール・モフド・ノール (アジア太平洋高度ネットワーク協議会 eカルチャー・ワーキンググループ議長)
- フランス、ヨーロッパにおける法華経の受容…………… ペルトラン・ロシニョール (海外研究員)

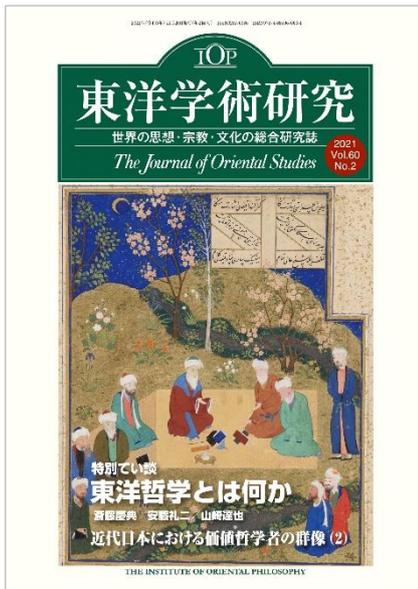
### ■新連載「近代日本における価値哲学者の群像(1)」

- 序——新カント派価値哲学とその受容史…………… 伊藤 貴雄 (研究員) / 川口 雄一 (立命館大学加藤周一現代思想研究センター客員協力研究員)
- 南原繁の政治哲学——「価値並行論」および「理想主義的社会主義」の思想史的位置をめぐって(1)…………… 川口 雄一 (立命館大学加藤周一現代思想研究センター客員協力研究員)
- 河合栄治郎の理想主義哲学とファシズム批判…………… 松井 慎一郎 (委嘱研究員)

### ■「信仰と理性——コロナ禍のなかで」(連続公開講演会より)

- インドの詩聖ロビンドロナト・タゴールの思想——信仰と理性の観点から…………… 竹内 啓二 (麗澤大学名誉教授)
- 仏の消えた浄土——変転する生者と死者との関係性…………… 佐藤 弘夫 (委嘱研究員)
- 21世紀の信仰と理性——ユダヤ人にみる宗教者の使命…………… 市川 裕 (東京大学名誉教授)
- ポストモダンと宗教——AIと意思決定の外部化…………… 岡嶋 裕史 (中央大学教授)

## 東洋学術研究 第60巻 第2号(通巻187号) 定価:1,400円(税込)



■第60巻第2号では、特別てい談「東洋哲学とは何か」を企画。3人の哲学者が「『東洋』哲学と神秘体験」「『空』と『無』」「『無』から『存在』へ」「政治について」などをテーマに縦横に論じている。連載2回目となる「近代日本における価値哲学者の群像」では、桑木厳翼、南原繁、牧口常三郎に関する論考を掲載。特別寄稿では、2人の識者が東日本大震災をテーマに考察している。

■2021年の学術大会シンポジウムでは「21世紀における信仰と理性——創立者の『スコラ哲学と現代文明』講演の視座から」をテーマに3人の識者が登壇した。また、1973年に行われた創立者・池田先生の講演「スコラ哲学と現代文明」および、研究発表とパネルディスカッションの内容を掲載した。新コーナー「思想の扉」では、15世紀の東洋の大詩人アリーシール・ナヴァーイーの文学的遺産について研究者が論じている。そのほか、書評、新刊紹介、研究覚え書きを掲載している。

### 主な内容

#### ■特別てい談「東洋哲学とは何か」

…………… 斎藤 慶典（慶応義塾大学教授）／安藤 礼二（多摩美術大学教授）／山崎 達也（研究員）

#### ■連載「近代日本における価値哲学者の群像（2）」

序——新カント派価値哲学とその受容史（2）…………… 伊藤 貴雄（研究員）

桑木厳翼とベルリンの哲学…………… 大橋 容一郎（上智大学教授）

南原繁の政治哲学——「価値並行論」および「理想主義的社会主義」の思想史的位置をめぐって（2）

…………… 川口 雄一（立命館大学加藤周一現代思想研究センター客員協力研究員）

牧口常三郎の価値哲学とそのコンテクスト——科学的教育学という構想の思想史的位置づけ——（1）

…………… 伊藤 貴雄（研究員）

#### ■21世紀における信仰と理性——創立者の「スコラ哲学と現代文明」講演の視座から

（第35回学術大会シンポジウムより）

スコラ哲学と現代文明…………… 池田 大作（創価学会インタナショナル会長、東洋哲学研究所創立者）

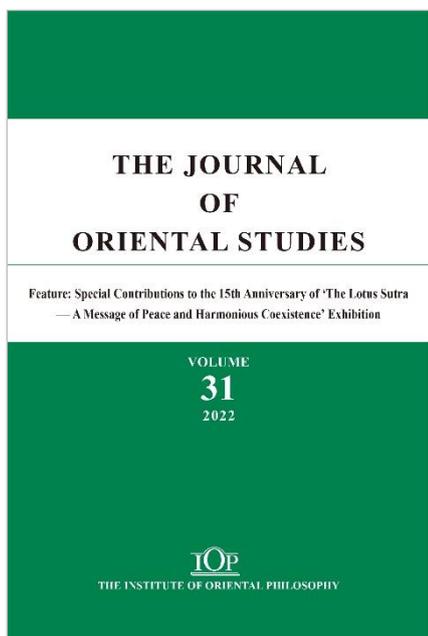
信における内在と超越——中世スコラ神学から法華思想へ——…………… 山崎 達也（研究員）

ヨゼフ・ルクフル・フロマートカの人間論…………… 佐藤 優（同志社大学客員教授、作家）

宗教に根を張った学問体系と宗教間対話における信仰と理性——シュライエルマッハー的考察

…………… 山脇 直司（東京大学名誉教授、星槎大学学長）

**The Journal of Oriental Studies vol. 31** 定価：2,200円（税込）



**Main Articles**

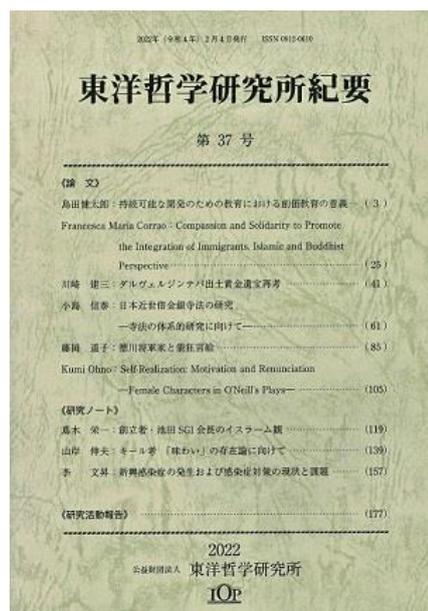
■ **Feature 1: Special Contributions to the 15th Anniversary of ‘The Lotus Sutra —A Message of Peace and Harmonious Coexistence’ Exhibition**

- The Role of the Lotus Sutra Exhibition in Inter-civilizational and Inter-religious Dialogue..... Eiichi Tsutaki  
 The Art of Dunhuang and the Lotus Sutra..... Zhao Shengliang  
 Joint Exhibition Activities of the Institute of Oriental Philosophy and the Institute of Oriental Manuscripts of the Russian Academy of Sciences..... Irina F. Popova  
 The Parable as a Vehicle to Elucidate the Lotus Sutra..... Faridah Noor Mohd Noor  
 The Lotus Sutra’s Presence in France and Europe..... Bertrand Rossignol

■ **Feature 2: From Daisaku Ikeda’s Views —Faith and Reason, Global Citizenship, and Hope**

- Immanence and Transcendence in Faith: From Medieval Scholastic Theology to the Lotus Sutra Thought..... Tatsuya Yamazaki  
 Josef Lukl Hromádka’s Understanding on Human Being..... Masaru Sato  
 Faith and Reason in Religious-based Academic System and Inter-religious Dialogue: From the Viewpoint of Schleiermacher..... Naoshi Yamawaki  
 Educating Global Citizens in a Time of Crisis..... Christopher Chiong-Meng Boey  
 Shaping Things to Come: Interdisciplinary Perspectives on How Imagined Futures Influence the Present..... Till Markus

**東洋哲学研究所紀要 第37号**（非売品）



《論文》

- 持続可能な開発のための教育における創価教育の意義..... 島田 健太郎（委嘱研究員）  
 ■ Compassion and Solidarity to Promote the Integration of Immigrants. Islamic and Buddhist Perspective..... Francesca Maria Corrao（海外研究員）  
 ■ ダルヴェルジンテパ出土黄金遺宝再考..... 川崎 建三（委嘱研究員）  
 ■ 日本近世借金銀寺法の研究——寺法の体系的な研究に向けて..... 小島 信泰（委嘱研究員）  
 ■ 徳川將軍家と能狂言絵..... 藤岡 道子（委嘱研究員）  
 ■ Self-Realization: Motivation and Renunciation——Female Characters in O’Neill’s Plays..... Kumi Ohno（委嘱研究員）

《研究ノート》

- 創立者・池田 SGI 会長のイスラーム観..... 蔦木 栄一（委嘱研究員）  
 ■ キール考 「味わい」の存在論に向けて..... 山岸 伸夫（委嘱研究員）  
 ■ 新興感染症の発生および感染症対策の現状と課題..... 李文昇（委嘱研究員）

《研究活動報告》



公益財団法人東洋哲学研究所

〒192-0003 東京都八王子市丹木町 1-236

Tel: 042 (691) 6591 Fax: 042 (691) 6588

メールアドレス: [iop\\_info@iop.or.jp](mailto:iop_info@iop.or.jp)

日本語サイト: <http://www.totetu.org/>

英語サイト: <http://www.iop.or.jp/>



公益財団法人東洋哲学研究所

THE INSTITUTE OF ORIENTAL PHILOSOPHY